

長谷川峻卓 はせがわしゅんたく 高松藩士。享和二年十一月十四日讃岐國高松生れ、
明治二年九月二十五日歿（八〇三一七〇）。父は松崎氏。諱秀麿、ひでまろ 初め秀
芳、字邦傑、通稱安次郎、京右衛門。變名丸岡論。藤田東湖、會澤正
志齋、深川星巖、梅田雲濟等と親交し、國華を奔走。嘉永六年黒船來
航之際し、「海防危言」を弔し、三條實萬、徳川齊昭、松平慶永に獻
ず。安政の大獄では子の速水はやみと共に下獄、吉田松陰と同囚となるも、
文久二年朝命により解獄。以後も戊辰戦で朝敵となる藩主に諫言して
再下獄するはげし、多難を過しつゝ。

天野御民著『長谷川峻卓傳』（明治二十五年三月私家版）がある。

